

児童の社会情緒性の発達に資する小学校における学校行事の縦断的検討

久保田（河本）愛子（宇都宮大学 教育学部 助教）

■ **本研究の目的** 日本の学校では、授業のみならず、運動会や学芸会などの学校行事が一年を通して、ごく当たり前に行われている。学校行事は100年以上にわたり教師に根強く支持され、連綿と実践が重ねられてきた。現在では学校行事が児童の社会情緒性を伸長する上で重要であることが暗黙裡に前提視され、全ての児童の参加を要する活動とされている。ところが、小学校の学校行事の機能に関する実証的知見は乏しく、その実施方法も実証的な意味では十分に考究されていない。そこで、本研究では、学校行事の機能と個人の発達に対する影響過程の解明を目的に縦断的な研究手法を用いて、以下3つの研究を行った。

■ **研究1：小学校の運動会への没頭に関連する児童の特性要因と没頭が社会情緒面に対して及ぼす影響の検討**

2時点の大規模質問紙調査のデータを用いて、運動会に没頭しやすい児童の特性要因の検討と、運動会への没頭が次の年の社会情緒面に対して及ぼす影響の検討を行った。その結果、児童の特性要因のうち、**協調性の高さが最も大きく運動会への没頭を説明**することが示された。また、交差遅延モデルを用いて検討を行った結果、協調性をはじめとした児童の特性要因を統制してもなお、運動会に没頭していた児童ほど、その次の年の自尊感情が高いことが示唆された。このことから、**運動会に没頭することは、その次の年の自尊感情の高さにつながる**ことが示唆された。

■ **研究2-1：小学校における運動会体験とそれが児童の社会情緒面に対して及ぼす影響の縦断的検討**——**集団社会化理論に着目して**

研究2-1では、研究1の知見を基に、**なぜ小学校の運動会での体験が社会情緒面に有用であるのか**を解明することを目的に、**集団社会化理論**(Harris, 1995)の視座から、小学校での運動会体験が、**クラスの中での同化や差異化**を介して、いかに運動会後の児童の社会情緒面の発達に影響するのかを検討した(クラス内での同化とは、より平易な言葉でいうと、クラスに所属感をもち、クラスに受け入れられる行動を行うようになることをいう。一方、クラス内での差異化とは、クラスの中で自身の個性や得意分野を認識し、それを発揮していくことをさす)。小学5、6年生を対象に4時点の縦断的な質問紙調査を行い、統計的な分析を行った結果、以下のことが明らかとなった。まず、同化に関しては、運動会に向けた動機づけのうち同一化的調整、運動会の準備・練習への没頭、成功への期待、担任の援助介入が、クラスでの同化の深まり認知を介して、9月から12月の感情制御、ならびに社会参画の伸びにつながる等が示された。また、差異化に関しては、運動会に向けた動機づけのうち同一化的調整、成功への期待が、クラスでの差異化の深まり認知を介して、9月から12月の自尊感情の伸びにつながる等が示された。ここから、運動会での体験が児童の社会情緒面の伸びに資する背景には、クラスでの**集団ダイナミクス**があることが示唆された。

■ **研究2-2：小学校の運動会における教師の援助の仕方に関する事例検討**

研究2-2では、研究2-1で対象とした小学校の運動会の準備・練習の観察調査ならびに教師を対象に面接調査を行い、小学校の運動会において教師がどういった援助を行っているのか事例の記述を行った。その結果、様々な支援の工夫がみられた。例えば、ある学校では運動会用の**リーフレット**を作成し、そこに児童に期待される心構え、本番までのスケジュール、目当ての設定や振り返りのワークシートをポートフォリオのようにしてまとめていた。担任教師は、そのワークシートへのコメントを通して児童を励まし、成長に向けて児童の背中をおしていたようだった。また、最初に**オリエンテーション**を設けることで、運動会の目的やテーマがどこにあるのか、なぜそのような目的やテーマになったのか、準備・練習中の心構え、といった運動会の価値・有用性、教師からの期待を児童に伝えていた。これは児童の動機付けや集団意識を高める上で有用であると考えられた。運動会に向けた演技の練習では、毎回、**目当ての設定と振り返り**を行っており、振り返りの際には、児童の意見を表明する機会を設けていた。練習中の教師の声のかけ方についても、教師が児童の様子を褒めたり注意するだけでなく、『わかる人が教えてあげなよ』といったように、**児童同士が声を掛け合うよう**促していた。練習中のこうした教師の働きかけが児童同士の関わりを深め、児童の所属感や連帯感につながるのではないかと考えられた。

■ **本研究の示唆と今後の展望** 以上より、小学校の運動会の発達上の意義が示され、運動会が効果をあげる背景には、クラス内での**集団ダイナミクス**があることが示唆された。本研究課題を通して、**小学校での運動会の体験が自尊感情の発達につながる**ことが**複数の研究で示された**点は注目に値する。今後は、研究2-2でみられたような教師の支援が、実際に運動会での児童の体験の質向上やその後の発達に影響しているのか、更なる検討が必要であろう。